

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	ジェントレス宮
所在地 (県・市町村名)	大阪府富田林市宮町一丁目3番5号
記入者名 (管理者)	安間 喜代子
記入日	平成 19年 6月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	サービス提供を受ける側の気持ちになり、そっと寄り添うケアの実践に努めていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念に基づいたケアプランの作成により、その実践に努めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域活動に積極的に参加し、地域交流を深め、理解を得られるよう努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後も気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気づくりに努めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域活動に積極的に参加し、地域交流を深め、理解を得られるよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	問い合わせ、相談等に対して関係機関と連携し、適切な対応を行なっている。	○	必要時には関係機関と連携し、問い合わせ、相談等に対しては迅速に対処出来るよう努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行ないサービスの質の向上に努め、外部評価の結果に対しては真摯に受け止め、早期の改善に努めている。	○	定期的に自己評価を行ない、サービスの質の向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて頂いた意見、要望について真摯に受け止め、サービスの質の向上に努めている。	○	頂いた意見、要望については迅速に対処し、サービスの質の向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種報告以外にも市担当者と連絡を取り、密接に連携している。	○	今後も密接に連携していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度共に利用者があり、その利用の際に必要な支援を行なった。	○	今後も必要時には関係機関と連携し、支援を行なっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修に参加し理解を深め、職員全員で見過ごす事のないよう注意し、防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後には利用者及びその家族の要望を聞き、十分な説明を行ない、安心して利用して頂けるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付箱の設置、又、個別の面談等にて聞き取りを行ない、気軽に相談出来る雰囲気作りに努めている。	○ 受け付けた苦情や相談に対しては、迅速に対処し、早期改善に努めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会開催時における全体報告、又は必要に応じて個々に報告を行ない、理解、協力を得られるよう努めている。	○ 心身の変化の有無に拘らず定期的な報告をし、ご家族とのより良い関係づくりを目指したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付箱の設置、又、面会時等の面談にて聞き取りを行ない、気軽に相談出来る雰囲気作りに努めている。	○ 受け付けた苦情、相談については迅速に対処し、早期改善に努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議時及び個人面談時に、自由に意見を発言出来る機会を設け、意見を反映できるよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時及び行事等に対応出来る様、職員確保について調整し、柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は今のところなく定着している。	○ 職員の離職等の際には、利用者及びその家族に対して説明を行ない、負担にならないよう配慮を行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修等に全ての職員が参加出来るよう調整を行ない、介護従事者としての質の向上に努めている。	○ 研修報告に関しては全体会議時に報告、全ての職員が閲覧出来るようにしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と互いの施設での実務研修、交流会を行ない、ネットワーク作り及びサービスの質の向上に努めている。	○ 今後も随時交流、勉強会の機会を持ち、サービスの質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員からの相談等を聞く機会を持ち、働きやすい環境づくりに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務態度、実績を評価し、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	随時施設見学をして頂き、入所される際には体験入所をご利用頂き、ご本人の希望、要望等について十分な聞き取りを行ない、安心してご利用頂けるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	随時施設見学をして頂き、ご家族の希望、要望等について十分な聞き取りを行ない、安心してご利用頂けるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け付けた相談に対して迅速に対処し、必要時には関係機関と連携し、適切な対応を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時施設見学をして頂き、入所される際には体験入所をご利用頂き、納得されたうえで入所して頂くよう配慮している。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の負担とならない範囲で、家事等での活躍の場を提供し、職員はそっと寄り添いながらお手伝いし、信頼関係の構築に努めている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担とならない範囲で行事等に参加頂き、実際の生活を体験して頂くことで関わりを持って頂き、職員との信頼関係の強化に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との会話やその場の雰囲気等から家族との関係を知ったり、問題課題がある関係の場合は、感情的行き違いが起らないよう対応している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの理髪店への送迎、かかりつけの病院への受診、ご友人との連絡面会調整等、出来る限りの支援を行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士でトラブルやストレスにならないよう、職員がパイプ役となり、さりげない見守りを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後においても必要時には、助言、関係機関の紹介等を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人のやりたい事、やれる事、やってみたい事を日常会話の中から引き出すよう努めている。意向を伝えられない方には選択出来るようにしたり、ご家族からの情報や協力を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から把握したり、家人面会時や他施設利用状況、サマリにて把握に努めている。また家族会の場で協力を得ている。	○	家人面会時に思い出の写真や馴染みの品等を持参頂いたり、コミュニケーションの中から生活歴や暮らし方の把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りにより職員全員が把握出来るようにしている。又急変時、特変時は随時報告している。又職員会議時に特に周知徹底を行なっている。	○	心身状態の変化を見極め、迅速且つ臨機応変な対応が出来るよう努める。特に急変時の対応の周知徹底を行なう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成時本人、家族からの希望を聞いている。ケアのあり方については、その都度ご利用者に合ったケアを臨機応変に対応し、その情報を職員全員が共有している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があった場合は、介護計画の見直しを迅速に行なっている。しかし、状態変化や心身機能低下に変化が認められないケースについては、継続が多く新たな計画が出来ていない。	○	毎日、日中及び夜間のケアプランを評価し、申し送り時に報告している。小さな気付きをプランに生かしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にカルテ作成を行ない、日々の活動や生活状況、心身状態を詳しく記録している。又情報を共有し日々の実践や介護計画に活かしている。	○	記録の記入方法や内容、書き方について日々見直し、介護計画に活用していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望、要望に出来る限り柔軟な対応を行なっている。外出、外泊においても出来る限りの支援を行なっている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人や家族の意向、必要性に応じて関係機関と協力し支援を行なっている。	○	ボランティアによる支援活動の拡大や実習生の受け入れを通じ、地域活動への参加や交流を持ちたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設との職員交換研修やケアマネージャとの意見交換や情報交換を行なっている。	○	他施設との情報交換や研修、ケアマネージャとの話し合いの場の拡大に努めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業の活用を行ない支援している。長期的なケアマネジメントについても随時行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理医との連携に努め、本人及びその家族等の希望に副う適切な医療を受けて頂き、必要時、病院の受診が出来る支援を行なっている。	○	病院及び医師との連携強化に努め、希望時や緊急対応時にも適切な医療を受けられる支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化やターミナルケアに拘らず、本人及びその家族が希望する限り施設全体で取り組んでいきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけに対して十分な配慮を行なっている。又個人情報の取り扱いには十分に注意している。	○ 声かけや対応が不適切な時は、その都度注意し、職員がお互い注意し合える体制作りに取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者からの希望は日常的に聞くよう働きかけを行ない、要望や訴えが言いやすい雰囲気づくりを行ない、個別に対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	緊急性、優先しなければならない事柄もあるが、出来る限り個々のペースに合った生活を送って頂いている。	○ 職員の都合によりご利用者にご迷惑をおかけする場合には、十分な説明を行ない、時間の配分や業務内容について改善を図る。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人及びその家族の希望に副った身だしなみの支援を行なっている。理美容のための外出は、十分な時間配分や人員配置に注意し、その人らしい身だしなみの支援を行なっている。	○ 老人だから、施設だからしないのではなく、その人らしいおしゃれをして頂けるよう本人及びその家族と話し合い、おしゃれをして頂きたい。又ご自身で出来ない方には、職員が支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日に栄養献立会議を行ない、ご利用者の食べたい食事を伺い、好き嫌いを把握し職員と一緒にメニュー作りをしている。	○ 時間のやりくりをし、ご利用者のペースに合わせた食事作りをしていきたい。少しでも出来る事をして頂ける工夫をする。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、喫煙者はなし。お酒については、行事時に希望者に医師の了承のもと提供している。又飲み物については、コーヒー、紅茶、緑茶、ジュース等本人の希望に副った飲み物を提供している。	○ 水分補給として配慮し、随時声かけを行ない、楽しみながら飲んで頂けるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限りおむつやリハビリパンツの使用は控えている。個々に合った声かけや誘導を行ない、自尊心を傷つけないよう配慮した支援を行なっている。	○	排泄チェック表により排泄のリズムを把握し、個々に合った声かけや誘導を行ない、不安なく生活して頂き、夜間については安眠出来るよう支援を行なっていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時には、本人の体調や心身機能に留意し支援を行なっている。又入浴は毎日可能で、ご希望があれば柔軟に対応している。	○	就寝前の夜間入浴についても検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常的にいつでも休息を取れる体制にて支援している。又倦怠感や諸症状を訴えられない方も含め、個々の体調管理を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴やご家族からの情報により、趣味や得意な事を把握し、張り合いのある生活が出来るよう支援している。又役割を持つことにより、活気ある生活を送って頂けるよう支援している。	○	特に炊事が出来る方には、食事の準備から片付けまで参加して頂き、一緒に行なうよう心掛けている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には所持して頂いている。又自己管理が出来ない方については、買い物等のお支払い時にお渡しし、自己にてお支払いをして頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出の希望を伺い、希望に副うよう支援している。又月一回外食の機会を設け、希望される場所に食事外出している。		施設内と環境が異なり、転倒等の事故のリスクも高くなるため、職員体制や急変時の対応についてチームケアの周知徹底を図りたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来る限りご利用者及びご家族の希望に副った支援を行なっている。	○	家族会にも協力して頂き外出の機会を作り、ご家族との思い出作りの支援を行なっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば随時対応を行なっている。ご家族の希望も把握し、時間帯や携帯電話の番号も把握し、支援させて頂いている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気づくりに努めている。	○	訪問し易いよう行事予定等を事前にお知らせしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止の対象となる具体的な行為」の内容を理解し、勉強会等を行ない、全職員の周知徹底に努めている。	○	「身体拘束をしないケア」について、これからも研修や勉強会を通じ意識を高めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアで常に開放された状態である。夜間19:00～7:00までは夜間体制と防犯のため施錠している。	○	そっと寄り添うケアの実践により施錠は必要でなくなる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にご利用者9名の所在確認及び安全確認を行なっている。居室で過ごされているご利用者についても巡視や声かけ見守りを行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者のADLや心身状態、一般状態を考慮し対応している。危険物、刃物、薬等は職員がいない時は施錠し保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための全体会議やリスクマネジメント会議をその都度行なっている。ヒヤリハットについてもその都度話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「緊急時対応マニュアル」により、急変時や事故発生時に対応出来るよう常に訓練を行なっている。又必要時には随時勉強会を行なっている。	○	「緊急時対応マニュアル」の周知徹底と、臨機応変な対応が出来るよう常に訓練を行ないたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルに基づき定期的に避難訓練を行ない、又近隣の方々の協力を得られるよう働きかけている。	○	定期的な避難訓練だけではなく、日頃より災害対策について意識を高めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時にご家族に説明を行なっている。又心身機能の変化がみられた場合、その都度話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常にご利用者の小さな気付きに目を向けている。又体調変化が起きた場合、緊急処置を行ない、管理医に報告、指示に従っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や個人別お薬見本帳を作成し、薬ケースの利用により服薬管理を行なっている。	○	既往歴や現状の心身状態の把握を常に行ない、薬に対してはお薬説明書の活用により効果や副作用についても学んでいきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事メニュー作成時に繊維の豊富な食材を取り入れるなど便通に配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず歯磨き、うがいを本人の状態に合わせた支援にて行ない、口腔内の清潔保持に努めている。又年一回の歯科検診にて状態の把握に努めている。	○	義歯の不具合による咀嚼や嚥下、誤嚥に注意し、自歯の方に対しては、出来る限り一本でも多くの歯を残せるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表の活用により把握支援を行なっている。又水分チェック表は使用していないが、常に水分摂取が出来るよう支援している。	○	毎週日曜日に栄養献立会議をご利用者、職員と一緒に 行ない、分量や好み、個々の状態に合っているか話し合っ ている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルに基づいて実行している。又予防や対応について保健所等より情報を得ている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等はハイター消毒を行なっている。又新鮮で安全な食材を自分達で購入し、定期的に賞味期限や食材チェックを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門、玄関は常に開放している。	○	外から見えなくならないように垣根の剪定を定期的に行なっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、居室の窓から外の景色がいつでも見ることが出来る事により、季節を感じて頂き一日の時間の流れを感じて頂ける。	○	共有空間には季節に合った壁面づくりや、ご利用者が作られた作品等を展示している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ席以外にもお独りでも座れる場所の確保とイスの設置を行ない、居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者及びご家族と相談し、馴染みの品やお仏壇、以前に手作りされた物等の持ち込みをして頂き、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行ない、ご利用者の状況に応じた温度調節に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープや手すりの設置、又身体機能に合った車イスや机、イスの提供を行ない、自立した生活の支援を行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレは混乱しないよう目印をし、さりげない声かけ、誘導を行なっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りを散歩したり運動出来るよう芝生の植え込みや危険物の排除を行ない、ご利用者が楽しめる工夫をしている。又屋外にもイスの設置をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

介護予防運動やレクレーションとして独自の体操メニューを作り、毎日体操の時間として行なっている。手ぬぐいや鳴子などの用具を使用し、職員と共に楽しみながら身体を動かしている。施設であるが、あくまでも家庭的な雰囲気の中で普通の生活を送って頂ける支援を行なっている。カラオケや外食、買い物等も時間にしばられる事なく外出出来るよう家族、地域住民の協力を頂き行なっています。今後ご利用者が生き生きと生活し易い環境作りと支援を行なっていきます。